

With both research and practice "Realizing a vibrant and long-lived society" To contribute.

研究と実践の両輪で
「活力ある長寿社会の実現」に貢献する。

育成する人材像

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っています。とくに、東京都立大学の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつです。

幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われています。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指します。

Human resources image developed in Human Health Science Graduate School

The Graduate School of Human Health Sciences focuses on research related to the "health" of people living in large cities. In particular, research that contributes to the realization of a vibrant longevity society, which is the mission of Tokyo Metropolitan University, is one of the major issues of this major.

Based on a well-established academic system based on theory and practical knowledge in a wide range of fields, in addition to deepening it, graduate education is conducted under an interdisciplinary and integrated research system. We aim to foster "highly practical experts" and "leading researchers" in various fields related to health.

理学療法科学域の特色

Characteristics of the Physical Therapy Science Area

今日、保健・医療・福祉の領域では、理学療法の専門的能力を備えた高度専門職業人の必要性が高まっています。こうした状況に応えるべく、本研究科理学療法科学域では障がい者(児)から高齢者まで幅広い研究分野を設置し、様々な理学療法課題に応えられる臨床家、教育者および研究者の育成を目指しています。

・運動障害分析理学療法学 ・身体機能回復理学療法学 ・地域理学療法学

以上、3つの研究分野を設け、それぞれに博士前期課程および博士後期課程を設置。また昼夜開講制を採用し、理学療法士などの臨床経験を蓄積しながら研究を進めることができる環境を実現。臨床と研究の有機的展開を図ることが可能となっています。

Nowadays, in the area of health, medical care and welfare, the need for highly skilled professionals with advanced physical therapy expertise is increasing. In the Physical Therapy Science area of this Graduate School, we set up a wide research field from pediatric to the elderly, and aim to foster clinicians, educators and researchers who can respond to various physical therapy problems.

Therefore, we set up research areas of physical function recovery physical therapy, movement disorder analysis physical therapy, and community-based physical therapy, and set up a master's program and a doctoral program respectively.

In addition, it is possible to advance research while adopting clinical day and night lecture system and accumulating clinical experience as a medical profession such as a physical therapist, and it is possible to plan an organic development of clinical and research.

理学療法科学域 教育研究の柱

The pillar of education and research in the physical therapy science area

運動障害分析 理学療法学分野

Movement disorder analysis
physical therapy field

身体機能回復 理学療法学分野

Physical function recovery
physical therapy field

地域 理学療法学分野

Community-based physical
therapy field

徒手理学療法学コース(修士)

Manual Physical Therapy Course (Master)

アドミッションポリシー

Admission Policy

博士前期課程

Master's program

理学療法学の高度専門知識の習得と技術の向上を目的に最新知見を教授し、自律した行動能力を持つ高度実践専門家や教育・研究者の養成を目指します。

We teach the latest knowledge for the purpose of acquiring advanced knowledge of physiotherapists and technical improvement, advanced practice specialists, and education with self-directed behavioral skills based on creative and scientific thinking for professional development. Aims to train teachers and researchers.

博士後期課程

Doctoral program

博士前期課程の分野での学習・研究をさらに発展させ、大学や研究所、企業などで自律的に研究できる人材を養成します。

The purpose is to further develop learning and research in the field of master's program, and to train human resources who can research autonomously in universities, research institutes, companies, etc.

分野共通(必修科目)

Common to all fields (required courses)

博士前期課程(修士)

Master's program

理学療法科学特別研究

Thesis in Physical therapy Physical

理学療法学研究法特論

Therapy Research Method

博士後期課程(博士)

Doctoral program

理学療法科学特別研究

Thesis in Physical therapy

特別研究(修士・博士論文)指導過程

Thesis in Physical therapy (master's and doctoral thesis) teaching process



東京都立大学
人間健康科学研究科
理学療法科学域
研究室紹介

Department of Physical Therapy,
Graduate School of Health Sciences,
Tokyo Metropolitan University

運動障害分析 理学療法学分野

小児理学療法学 儀間研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

発達障害理学療法学特論 発達障害理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

発達障害理学療法学特講 発達障害理学療法学特講演習

研究キーワード

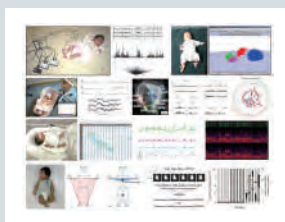
自発運動, 感覚運動経験, 胎児, 新生児, 乳児, 低出生体重児,
運動発達, 発達障害, 小児理学療法



儀間 裕貴
Gima Hirotaka

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 准教授

Website: <https://gimahiroataka.com>
E-mail: gima@tmu.ac.jp



脳・身体(運動・行動)・環境の間の 相互作用から, 子どもの理学療法学に 役立つ新しい知見を探究する

発達に重要な“感覚運動経験”

本研究室では, 胎児期, 新生児期, 乳幼児期, 学童期における発達の特性と, 運動障害や発達障害に関するあらゆる課題を研究テーマとして取り上げます。これらのテーマについて, 特に感覚運動経験の発達メカニズムの観点から捉え, 脳と身体(運動・行動)と環境の相互作用がヒトの発達におよぼす影響について理解を深め, 発達科学の知見に基づいた子どもに対する理学療法学・リハビリテーション学への展開を目指します。

早産・低出生体重児の発達支援

本研究室では, 特に早産・低出生体重で出生した子どもに対する理学療法の評価, 発達を促進するための個別的ケアの方法, 早期理学療法介入プログラム, 発達フォローアップの在り方などについて検討し, 実践へつなげていきます。得られる研究成果や知見を, 学会発表や論文発表を通して広く発信し, 子どもたちの健やかな発達へつなげることを目指します。

子どもの“動き”を計測する

研究には, 運動を計測するための各種計測機器(三軸加速度計, 三次元動作解析装置, 体圧センサ, AIによる骨格推定など)を用いるだけでなく, 臨床の現場で非侵襲的に計測できる機器や方法のアイデアを模索し, 提案・開発を目指します。可能な限り, 子どもたちが活動する場において自然かつ自発的に表出する姿勢や運動の特性を定性・定量化し, その特徴から理学療法プログラムを考えます。

予防理学療法学 田島研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

予防理学療法学特論 予防理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

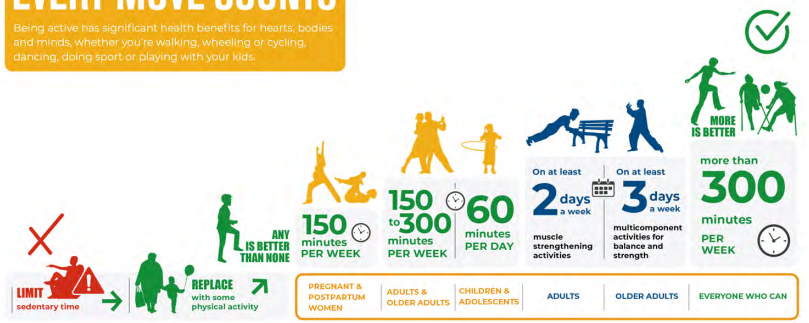
予防理学療法学特講 予防理学療法学特講演習

研究キーワード

身体活動, 運動, 座位行動, 活動量計, ガイドライン認知度, 健康増進, 介護予防, 運動疫学, 公衆衛生学, 予防医学

EVERY MOVE COUNTS

Being active has significant health benefits for hearts, bodies and minds, whether you're walking, wheeling or cycling, dancing, doing sport or playing with your kids.



WHO guidelines on physical activity and sedentary behaviour (2020). For more information, visit: www.who.int/health-topics/physical-activity



田島 敬之
Tajima Takayuki

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法学域 准教授
慶應義塾大学 スポーツ医学研究センター 兼任所員

Website: https://researchmap.jp/t_tajima
E-mail: ttajima@tmu.ac.jp

疫学研究手法を用いた 身体活動促進に関わる要因の探索・ 介入を通して、国民の身体活動不足 解消に挑む

疫学的研究手法を修得する

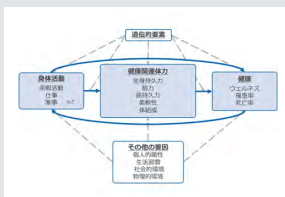
本研究室は、身体活動と公衆衛生(集団の健康づくり・疾病予防・介護予防)に関する課題を主なテーマとして取り上げる。修士課程では、公衆衛生学の柱となる疫学や健康教育, 生物統計学などの基本的知識を修得し, 疫学的研究デザインの立案・実践・解析・論文化の能力を身につけ, 得られた知見を社会へ還元することを目指す。身体活動については, 質問紙による主観的評価や, 活動量計(三軸加速度計)による客観的評価法の特徴を理解し, 解析できる力を身につける。さらに身体活動と健康関連体力や健康アウトカムとの関連, ならびにこれらの関係性を修飾する個人的要因や環境要因との結びつきについても理解を深め, エビデンスを読み解く力, 研究を実践する力を身につける。

身体活動不足の解決策を探求

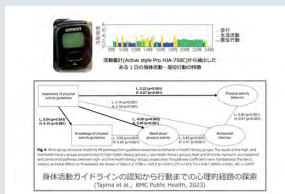
今日までの疫学研究から, 身体活動には, 健康上多くの利益があることが証明されている。しかしながら, 身体活動不足である者は高所得国を中心に増加傾向にある。身体活動の促進・減少には, 多くの要因が複雑に関わっており, 単一のアプローチでは解決が難しい。そのため多様な視点を持ち, この課題に取り組む必要がある。

・本研究室における現在の主なテーマ

- 身体活動ガイドラインの認知度縦断調査と身体活動促進に向けたメッセージ戦略の開発
- 変形性関節症を有する方の身体活動基準の検討
- 超高齢者の身体活動・座位行動とフレイルの関連 など



身体活動と健康に関する概念図
(Physical Activity and Health 2nd ed,
Human Kinetics を参考に作成)



身体不活動の解決策「システムズアプローチ」
(WHO, 身体活動に関する世界行動計画
20182030より引用)

運動障害分析 理学療法学分野

内部障害理学療法学 古川研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

内部障害理学療法学特論 内部障害理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

内部障害理学療法学特講 内部障害理学療法学特論演習

研究キーワード

理学療法, 内部障害, 身体活動量, 酸素摂取量, 心拍数, 障害予防, 姿勢, 体力, 運動負荷, 呼吸筋力, 筋酸素飽和度



古川 順光
Furukawa Yorimitsu

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 教授

Website: <https://www.tmu.ac.jp/stafflist/data/ha/752.html>

E-mail: yfuru@tmu.ac.jp

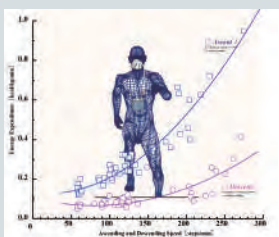
内部障害に対する理学療法 内部障害者の体力・身体活動に関し 探究することで、内部障害や 生活習慣病の予防に資する

基礎研究と臨床研究

本研究室では内部障害に対する理学療法、体力・身体活動に関して探究することで、内部障害や生活習慣病の予防に資することを目的に、様々な視点からの研究活動を展開している。学内の実験研究では、運動生理学的手法を中心に据え、運動負荷中の酸素摂取量、心拍数、筋酸素飽和度の変化、姿勢や呼吸筋力の影響を検討している。また学外のフィールドでの研究では、主に呼吸障害や循環器障害などの障害を有する患者を対象に、科学的根拠に基づいた適切な理学療法アプローチの基盤となる研究を展開している。

主な研究テーマ

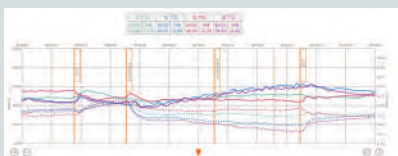
近年の研究テーマの主なものは以下の通りである。1. 身体活動量の評価に関する研究、2. 姿勢変化と呼吸筋力、3. 運動負荷時の呼吸・循環応答に関する研究、4. 運動負荷時の筋酸素飽和度と月経周期の関係に関する研究、5. 姿勢の違いが運動負荷時の呼吸・循環応答に与える影響に関する研究、6. 骨格筋経皮的電気刺激がエネルギー代謝量に及ぼす影響に関する研究、7. 血液透析患者における転倒予測や運動介入に関する研究、8. 上腹部開腹手術後の周術期リハビリテーション効果に関する研究、9. 呼吸理学療法と音楽療法の併用効果について、10. ウエスト周囲長と体幹部脂肪率の関係、11. 病前生活範囲と嚥下機能の関係、12. マスクとリザーバー効果の関係 など



階段昇降速度とエネルギー消費量



姿勢の違いと呼吸循環応答



運動中の筋酸素飽和度

運動障害分析 理学療法学分野

認知運動科学 池田研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

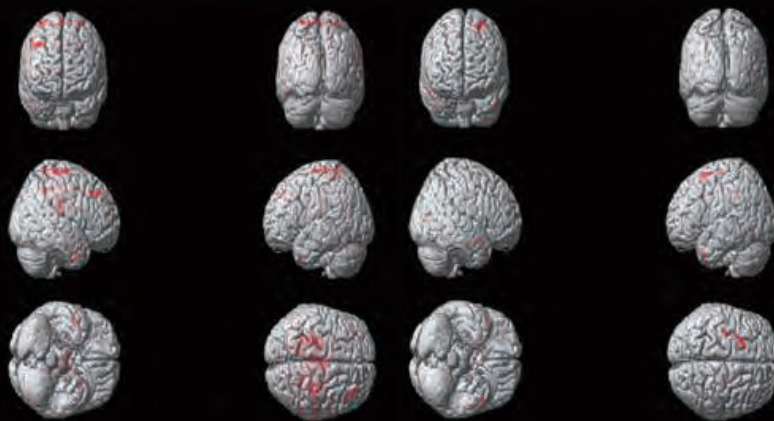
認知運動科学理学療法学特論 認知運動科学理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

認知運動科学理学療法学特講 認知運動科学理学療法学特講演習

研究キーワード

運動と行為の回復、運動学習と運動制御、
運動イメージ、認知神経リハビリテーション



池田 由美

Ikeda Yumi

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 教授

E-mail: ikedayum@tmu.ac.jp

運動機能とその障害

認知機能とその障害

それぞれの関係性を分析し

臨床に応用できる戦略を探求する

運動障害の病理の解明、これまでの評価方法の検討、ならびに理学療法の具体的な方略の開発を目的とし、随意運動の神経機構や神経系の可塑性、運動イメージ、運動学習と運動制御等に関する研究を行います。

どんなことを学ぶのか

身体運動機能やその障害ならびに認知機能やその障害に関する研究の動向を分析し、運動機能と認知機能の研究手法について多角的に学びます。また、現在の理学療法評価と運動・認知神経科学の側面から運動・行為の障害からの回復に関する問題について検討し、臨床に応用できる戦略を探求します。

学習のテーマ

随意運動の神経機構

神経系の可塑性

運動イメージ

運動学習と運動制御

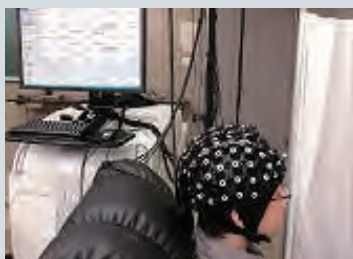
運動錯覚

多感覚統合

主観的経験と身体運動の回復

行為能力の回復

認知神経リハビリテーション



fNIRSを用いた視覚誘導性運動錯覚課題中の脳血流量の測定。脳の血流量の変化をfNIRS（近赤外脳機能計測法）やfMRI（機能的磁気共鳴機能画像法）を用いて測定し、錯覚中や運動イメージ中、運動学習中に活動する脳の領域を明らかにする研究等を行っている

運動障害分析 理学療法学分野

神経理学療法学 金子研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

神経理学療法学特論 神経理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

神経理学療法学特講 神経理学療法学特講演習

研究キーワード

脳可塑性, 運動感覚, 身体図式, 脳卒中, 神経科学, 生理学,
ニューロモデュレーション, MRI, 誘発筋電図, 産学連携,
アントレプレナーシップ



金子 文成
Kaneko Fuminari

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 教授
東京都立大学 メタ・ヘルスケア リサーチコア リサーチコア長

Website: <https://neurophysio.jp/>, <https://researchmap.jp/fkaneko>
E-mail: f-kaneko@tmu.ac.jp

神経科学に基づく ニューロリハビリテーション治療の開発 運動と感覚に関わる神経系システムの 巨視的な探究

神経損傷後の身体機能障害に対する治療の開発

脳を含む神経系は身体状況への適応が早く、脳卒中などの中枢神経損傷後にはそのケガや病気による損傷に加え、二次的な不活動の影響を強く受けます。神経理学療法は、神経損傷による身体機能障害の修復、およびネガティブな二次的適応で起こるさまざまな症状を改善させるために実施されます。

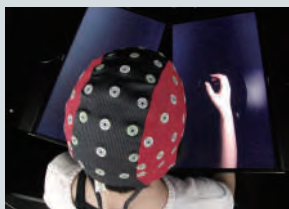
私たちは、磁気や電気による非侵襲脳刺激法、神経筋電気刺激と視覚刺激との組み合わせによるニューロモデュレーションなどを用いて、神経機能を修復する手段の開発につながるシーズ研究と臨床研究を行っています。また、バーチャルリアリティ (VR) による刺激や腱振動刺激を用いて他動的に運動感覚を脳内再現させることで、運動機能を修復するための治療方法を開発しています。

スポーツから神経疾患まで

治療法の開発に続く研究範囲は、運動制御・運動学習と身体性システムとの関連についての研究です。VR を用いた身体感覚 (身体の大きさや形、運動の状態) の錯覚誘導や、脳内運動イメージ再現など、身体感覚へのアプローチについて生理学的原理を探求する研究を行っています。脳機能評価法は、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI)、多チャンネル脳波、経頭蓋磁気刺激、その他の誘発電位などを応用します。さらに、筋機能や運動機能との相関性を調べるために、表面筋電図や動作解析を行います。運動単位分解法を用いる研究も本研究室の特徴の一つです。



磁気共鳴画像法



多チャンネル脳波



経頭蓋磁気刺激

身体機能回復 理学療法学分野

筋骨格系理学療法学 来間研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

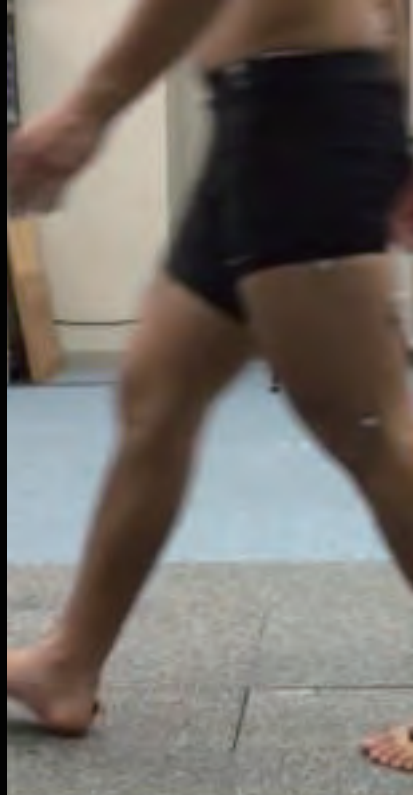
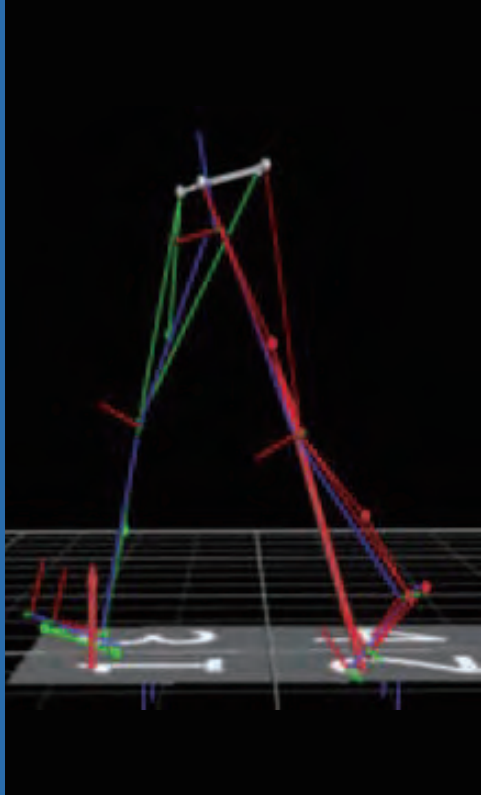
筋骨格系理学療法学特論 筋骨格系理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

筋骨格系理学療法学特講 筋骨格系理学療法学特講演習

研究キーワード

運動解析, 筋電図, 筋力, 磁気共鳴画像法, 超音波画像



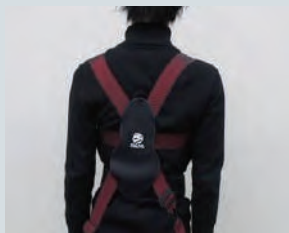
来間 弘展
Kuruma Hironobu

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 教授
E-mail: kuruma@tmu.ac.jp

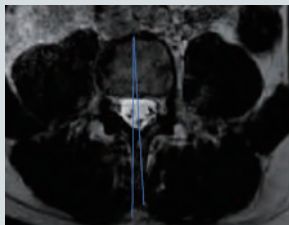
健常者と 運動機能障害を持つ方 それぞれの運動解析を行い 理学療法の効果的な 介入について探求する

筋骨格系理学療法に関する基礎研究および臨床研究を行います。健常者や運動機能障害を持つ方の運動解析を行い、理学療法の効果的な介入について研究、検討を行います。

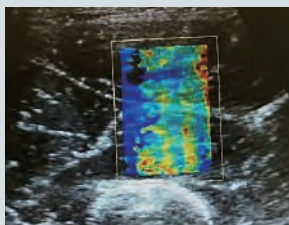
研究手法としては筋電図や筋力計、三次元動作解析、MRIや超音波を用い、筋機能や関節の機能を検証します。



体幹ハーネス



MRI 画像による腰椎回旋角度計測



Shear wave elastography による
大腿四頭筋の筋硬度測定画像

身体機能回復 理学療法学分野

運動器理学療法学 宇佐研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

運動器理学療法学特論 運動器理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

運動器理学療法学特講 運動器理学療法学特講演習

研究キーワード

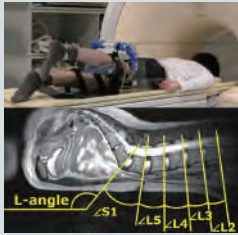
運動器, 筋機能, 関節運動, 神経滑走, 磁気共鳴画像,
超音波画像, 筋電図, 運動療法, 徒手理学療法, 物理療法



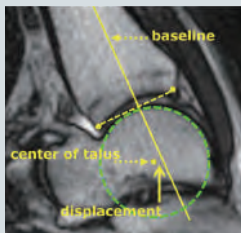
宇佐 英幸
Usa Hideyuki

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法学域 准教授

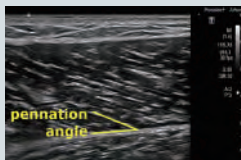
Website: <https://researchmap.jp/hideyukiusa>
E-mail: usa@tmu.ac.jp



MR画像から股関節伸展位での
腰椎椎間角度を計測



MR画像から足関節背屈に伴う
距骨後方移動量を計測



超音波画像から腓腹筋内側頭の
羽状角を計測

運動器の機能・特性

身体パフォーマンスを

さまざまな視点から分析し

運動器理学療法の可能性を探求する

運動器の機能・特性と身体パフォーマンス

本研究室では、神経、筋、関節といった運動器の機能・特性と、身体パフォーマンスに関するテーマについて研究します。運動器の機能・特性、身体パフォーマンスに関するパラメータとその分析方法、それらの関連性について理解を深め、分析に必要な計測を実施します。計測には、筋機能解析運動装置 (HUMAC NORM, CSMi) や筋電図システム (DELSYS EMG SYSTEM, DELSYS Inc.)、組織硬度計 (MyotonPRO, Myoton AS.) のほか、MRI (磁気共鳴画像) 診断装置 (SIGNA Pioneer Air IQ Edition, GE Healthcare) や超音波診断装置 (Aplio i800, キヤノンメディカルシステムズ) を用いて撮像した画像を用います。

運動器理学療法の効果検証, 最適化

運動器の障害に対して実施される、ストレッチングやレジスタンス・トレーニングといった運動療法や、関節モビライゼーションや軟部組織モビライゼーションをはじめとする様々な徒手理学療法、温熱療法をはじめとする物理療法の効果検証、最適化に関する研究も行います。各種理学療法介入前後で、前述した運動器の機能・特性、身体パフォーマンスに関するパラメータを計測し、その変化を分析します。こうした研究活動を通じて、運動器理学療法学の確立、運動器の障害改善と予防につながる情報の提供に貢献していきます。

身体機能回復 理学療法学分野

障がい者スポーツ 理学療法学 信太研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

障がい者スポーツ理学療法学特論 障がい者スポーツ理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

障がい者スポーツ理学療法学特講 障がい者スポーツ理学療法学特講演習

研究キーワード

パラスポーツ、脊髄損傷、障害予防、環境、車いす、支援工学、
スポーツ障害、トレーナビリティ



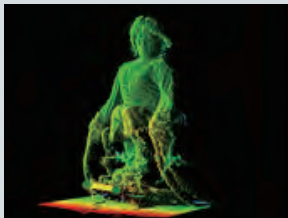
信太 奈美
Shida Nami

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 准教授

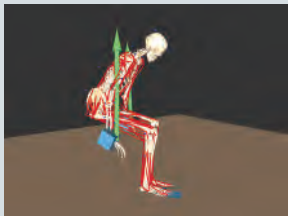
E-mail:shida@tmu.ac.jp



Thermography を用いた体表温度の研究



Mobile Motion Visualizer 鑑 (AKIRA)
車いす駆動解析



SIMMを使用した脊髄損傷者push upの研究

当事者はもとより周囲の人々や 環境にいたるまで 多面的な効果検証で 具体的なサポートにつなぐ

障がい者スポーツ選手の競技力向上および障害予防を中心に、障がい者の生活支援に関することがらを研究テーマとして取り上げています。

障がい者のスポーツ活動については身体的・心理的効果だけでなく、スポーツ用具の効果、普及開発システムなど派生する視点は多岐にわたります。障がい者がよりよく生きるための活動やスポーツ活動を、当事者はもとよりそれに関わる周囲の人々や環境等のあらゆる要素から多面的に効果検証を行い、サポートにつなぎます。

研究方法は、動作解析など運動学的手法を用いた観察研究や実践的介入研究、また調査研究などを実施します。

身体機能回復 理学療法学分野

ウィメンズヘルス・ メンズヘルス理学療法学 神尾研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学特論
ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学特論演習

研究キーワード

産前産後、骨盤底機能障害、尿失禁、腹直筋離開、慢性骨盤痛、
泌尿器疾患、骨粗鬆症、予防、トレーニングの開発



神尾 博代
Kamio Hiroyo

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 准教授
E-mail: Horikawa@tmu.ac.jp

性別に応じた健康課題に対処する 研究とプログラムの開発

健康増進に貢献し、労働生産性の 向上等に寄与する

性別や年齢に応じた理学療法 of 探求

女性と男性の生理的・生物学的な性差に着目し、それぞれのライフステージに合わせた理学療法の研究及びプログラム開発に取り組んでいます。例えば女性においては、妊娠・出産に伴う運動器疾患や骨盤底周辺の問題、尿失禁などが知られており、生活の質（QOL）の低下やメンタルへの悪影響が課題となっています。男性では、加齢とともに前立腺関連の問題や筋肉・骨格系の問題、性的機能障害などに直面します。我々の研究は、性別等に応じた適切な理学療法の研究・開発・評価を通じて、健康課題の解決に貢献しています。

他職種と連携した健康支援

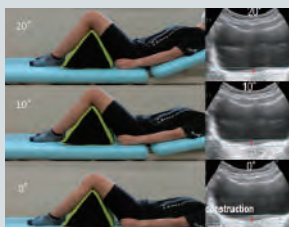
理学療法士と医師、看護師、助産師、保健師、トレーナーなどの他職種が連携し、女性や男性の健康支援に焦点を当てます。特に性別に基づく健康格差を理解し、女性や男性が経験する各ライフステージでの生理学的変化や心理社会的出来事を考慮します。そして、理学療法士として、科学的根拠に基づく適切な健康支援の方法を研究・開発・評価し、他職種と連携して提供することを目指します。現在、産前産後の身体ケアや尿失禁をテーマに助産師やトレーナーと共同研究などを行っています。性別に基づく健康格差の解消に向けて、臨床実践と科学的研究を融合させることを目標としています。



尿失禁予防体操の開発



超音波画像を用いた研究



骨盤底筋の動きの計測

地域理学療法学分野

地域理学療法学 浅川研究室

分野科目

博士前期課程（修士）

地域理学療法学特論 地域理学療法学特論演習

博士後期課程（博士）

地域理学療法学特講 地域理学療法学特講演習

研究キーワード

地域理学療法、デイケア、老年学

住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」

高齢者の暮らしを拓げる 10の筋力トレーニング

群馬県多野郡鬼石町(現 藤岡市)では、このトレーニングを住民主導で普及させ大きな効果をあげています




なんのために介護予防をするのか、お年寄りにどんなふうに暮らして欲しいのか、住民、行政、大学がこのことを一緒に考えて生まれた介護予防事業が住民主導型介護予防事業「鬼石モデル」です。このトレーニングは「鬼石モデル」で用いられている運動プログラムです。



浅川 康吉

Asakawa Yasuyoshi

東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 教授
E-mail: yasakawa@tmu.ac.jp

実践の歴史をベースに [個人-集団] [直接-間接] など 多彩なアプローチで確実につながり 支える社会に貢献する

地域における理学療法士の活動の歴史は長く、退院患者のフォローアップ、患者会支援などはおよそ50年前から行われていました。しかし、こうした活動が学問とその実践領域という形で整理されたのは最近です。その意味では、今日の地域理学療法学は、長い実践の歴史を背景に誕生した新しい分野といえます。

日本地域理学療法学会は、主な実践領域を「個人-集団」という軸と「直接-間接」という軸を直行させた4つの領域に整理しています。例えば、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションなどは個人を対象に理学療法士が直接的にアプローチする実践です。介護予防教室や生活習慣病予防教室も直接的なアプローチですが、集団を対象にした実践としてとらえます。地域ケア個別会議は個別の、行政との連携は集団を対象にしたアプローチで、いずれも間接的な実践としてとらえます。そして、これらの実践領域を拡充していくための主な学術領域として、1.老年学を基盤とする領域 2.保健活動を基盤とする領域、3.在宅支援領域を掲げています。

当研究室ではこれらの学術領域を踏まえて、以下の研究に取り組んでいます。



トレーニング指導には対面方式だけでなくハイブリット方式にも取り組んでいます。



地域理学療法学の構築を目指して積極的に学会活動に取り組んでいます。

出典 第10回日本地域理学療法学会学術大会ホームページ
<https://smartconf.jp/content/jsccpt2023/link>



地域理学療法学の4つの実践領域について幅広く研究に取り組んでいます。

出典 日本地域理学療法学会ホームページ
<https://www.jsccpt.jp/outline/>

1. 老年学を基盤とする領域

- ・高齢者に対する機能評価と理学療法介入
- ・介護予防、転倒予防

2. 保健活動を基盤とする領域

- ・健康増進、生活習慣病予防
- ・高齢者の健康管理、集団評価

3. 在宅支援領域(介護者支援を含む)

- ・訪問リハビリテーション
- ・通所リハビリテーション
- ・施設(施設入所者のリハビリテーション)
- ・社会参加(就学・就労支援を含む)
- ・制度(地域包括ケアシステムでの活動)

※参考 | 日本地域理学療法学会 <https://www.jsccpt.jp/>

徒手理学療法学コース (修士)

分野科目

博士前期課程（修士）

徒手理学療法学特論 高度徒手理学療法学特論
徒手理学療法学特論演習 等

研究キーワード

関節モビライゼーション、軟部組織モビライゼーション、脊柱



臨床実習後の検討会



頸椎の関節モビライゼーション



IFOMPT からのコース認定証

徒手理学療法学コース（International Manual Physical Therapy Course）は、世界理学療法連盟（World Physiotherapy：WCPT）のサブグループの一つである国際整形徒手理学療法連盟（International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists：IFOMPT）の教育基準に基づいた、講義と実技を行うコースです。

患者を治療するために総合的な知識およびクリニカルリーディング力を取得し、それらに基づいた臨床能力を取得することを目的とします。2年次には学んだ内容を臨床の場で実践する機会として臨床実習が設定されています。また将来的には、IFOMPTが認定する運動器徒手理学療法認定士（Orthopaedic Manual Physical Therapy：OMPT）の取得を目指します。

授業は平均週3日程度行います。批判的に知識・技術を学ぶ能力を養うため、ディスカッションを多く用いるクラスとなります。また留学生を受け入れるため、場合によっては英語で意見を述べる能力も必要となります。

ただ単に技術を習得するというのではなく、どのように考え、現在の限界を知り、更に発展させるためにどのように我々が寄与できるのかを考えることのできる、チャレンジ精神に富んだ学生を希望します。